

アカデミアにおける統計家による研究支援体制（国内）

北海道大学大学院医学研究科 医学統計学分野 伊藤 陽一

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 大庭 幸治

近年、我が国における臨床研究に対する質向上に向けた取り組みの中で、生物統計家の重要性が益々増してきている。2015年、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院として、医療法上に臨床研究中核病院が設置されることになったが、その中の要件としても、「臨床研究支援・管理部門に所属する専従の生物統計家（生物統計に精通し、臨床研究に係る生物統計についての実務経験を1年以上有する者）が2名以上であること。」とされている。

しかしながら、我が国の、特にアカデミアにおける臨床研究支援を行う生物統計家の数は、数多く行われている臨床研究に対してあまりに少ない。また、アカデミア間の情報共有もあまり十分でない中で、各人がそれぞれで工夫をしながら施設での支援を行っている印象がある。可能な限りの研究支援体制を構築していくためには、これらの情報を共有し、協力できる部分ではお互いに協力しながら、臨床研究の質向上に寄与することが望ましいと考えられる。

本発表では、国内のアカデミアにおける生物統計家の研究支援体制について、計量生物学会の会員情報およびインターネットでの公開情報を中心に実施する調査結果の発表を行う。